

今年度は、「小中連携の取組」以外に、「学力向上事業」「地域と進める体験推進事業」「来年度からの道徳の教科化に向けた校内での取組」について紹介する。

1. 小中連携の主な取組

(1) 小中合同研修会

今年度は7月30日に、小学校で小中合同研修会を実施し、小中教員が5つのグループ（学習部会・英語部会・道徳部会・教育相談部会・地域部会）に分かれ、話し合いの時間を設けた。学習部会では、4月に実施されたレディネステストについて、良かった点、改善が必要な内容について話し合い、記述式の問題の正答率が低いことから、教科の専門用語を使って説明する授業を取り入れていくことで共通理解を図った。英語部会では、新しい取り組みとして、小学校教員が英語の模擬授業を行い話題を提供した。中学校からは、1年生の授業で不足していると感じている力について現状を説明し、小学校でつけて欲しい能力や、小学校で授業をする上で日頃から疑問に思っていることを中心に話し合いをした。道徳部会では、中学校は来年度より道徳の教科化が始まるので、小学校の評価の方法について意見交換を行った。教育相談部会では、中学校と小学校高学年の気になる生徒についての情報交換を行った。



(2) 夏季休業中の中学校での学習会

7月26日、27日の両日、王子保小学校児童6年生を対象にした学習会「六中寺子屋」を、六中の多目的教室で行った。2日間で約30名の児童が来校し、中学校からは1年生よりボランティアで9名の生徒が参加した。1つのテーブルに2名の児童が座り、夏休みの課題で分からない問題を中学校の生徒が先生役となって、最後まで丁寧に教えた。寺子屋に参加した生徒は、「今の六年生と一緒に勉強を振り返ることができました。軽い会話をしながらだったので楽しかったです。心残りなのは、分かるようになるまで教えてあげられなかった子がいたことです。時間がなかったことと、本人のやりたいことをさせてあげられなかったからだと思います。精一杯教えたつもりでしたが、次にこのような機会があれば、個人のペースに合わせて教えてあげるようにしたいです。」と前向きな感想を書いていた。



(3) その他

9月15日文化祭2日目に、王子保小学校の児童を招待した。児童10名が来校し、全員で1年生から3年生まで各クラスの合唱を聴いた。また、王子保小学校の学校公開日や指導主事訪問日には、そのどちらかに六中の全教員が授業を参観した。小学校の授業を参観することで、それぞれの学習指導の様子や学習内容へのつながりに対する理解が深まった。また、生徒指導部の連携として、小学校で実施しているノーメディアデーを中学校でも実施し、実施期間を中学校のテスト期間に合わせて取り組んだ。

2. 学力向上事業の主な取組

昨年度までの取組みとしては、基礎基本の定着を図るために、各教科で計算や漢字、スペリング等のコンテストを実施し、合格率80%以上を目指した。また、授業にペアやグループ学習を取り入れ、生徒に考えさせる時間や話し合い活動の時間を設定したり、表現力をつけるための活動を強化したりしてきた。家庭学習の定着に向けては、テスト期間に合わせて宿題強化週間を設け、クラスの代議員が中心となって宿題の提出を呼びかけ、帰りの会に各クラスの提出率を放送することで、課題提出を生徒に意識付けさせた。さらに、長期休業中には、学年毎に2日程度の補充学習会の場を設け、個別で指導ができるよう少人数での取組を行った。

今年度は、昨年度までの活動を継続しながら、さらに以下の取組みを実践した。月曜日の部活動定休日に合わせ、各学年毎に放課後個別指導の時間を設けた。授業関係では、3年生の英語の授業を全クラス習熟度別学習で行った。また、校内授業公開週間を学期毎に1週間設け、全教員が1時間の授業公開を行い、教科や学年を解いて教員同士がお互いに授業を参観し、自分の授業に生かしたり、授業者にアドバイスをしたりして授業改善に努めた。教員の授業評価については、全国学調の生徒質問紙をベースにした質問内容を学期末にアンケートとして実施し、その結果から普段の授業の振り返りを行った。今年度の学校評価の結果では、ICTの効果的利活用の推進により、「わかりやすい授業に努めることができた」「考える時間を設定し、聞き合い、伝え合い、学び合う授業を工夫することができた」と回答した教員の割合がとても高かった。また、「意欲的に授業に取り組んでいる」「話し合いに参加したり、発表



したりしている」と回答した生徒の割合も高かった。ただ、S A S Aの生徒質問紙の中で、「授業で学習したことは、現在や社会に出てからの生活に役立つ」と考えている生徒の割合が低い傾向にあったので、来年度は今学習している内容が、身の回りの生活の中で役立っている例を授業中に紹介する場面を設定する方向で取り組んでいく。

3. 地域と進める体験推進事業の主な取組

地域と進める体験推進事業1年目の取り組みとして、3年生のボランティア41名の生徒が集まり実行委員となり、地域の夏祭りを盛り上げるため、地域住民が誰でも参加できる企画について検討した。話し合いの結果、地域資源の水路を使った大規模なイベントをしようと、アヒルのおもちゃのかわりに、軟式野球のボールを使うダックレース「六中M-1 R A C E グランプリ」を企画した。これは、公民館前の用水路にエントリーした番号付きの軟式野球ボールを流し、順位を競い表彰するものである。実行委員は、6月中旬から活動を開始し、チラシやエントリーカードを作ったり、ボールに番号を書いたり準備してきた。放課後は部活動で時間がとれないため、朝や昼休みの時間を利用して活動した。また、地域の方々にも、実現に向けてのアドバイスや水門の調節、法被の提供など多大な協力をいただいた。当日のイベントは大変盛り上がり、企画・運営を担当した生徒は、「いろいろな人が参加してくれてうれ



しいと思いながらスタートを見守った。後輩たちが、さらに地域が盛り上がるイベントにしてくれれば」や「地域に貢献できて良かった。自分たちに何ができるかを考えるきっかけになった。」と感想を述べた。夏祭り実行委員の方も「中学生の参加はうれしい。古里への愛着を高めて欲しい。」と話していた。今年度4月の全国学調生徒質問紙の中の項目で、地域に関する内容（地区の行事への参加や地区の出来事への関心等）の割合が低い傾向にあったが、イベント後のアンケートでは大幅に肯定的な回答となった。来年度は、1年生は王子保駅のイルミネーション作りへの参加、2年生は地区文化祭で、合唱披露のほか地区の人々が参加できるイベントの企画・運営、3年生は、引き続き、おうしお夏祭りのイベントの企画・運営を考えており、今年度以上に地域との関わりを深めていきたい。

4. 道徳の教科化に向けた校内での取組

昨年7月に、県教育総合研究所にて、道徳教育実践型集合研修会が開催され、本校からは道徳教育推進教師が参加した。これを受けて8月に校内で伝達講習会および来年度に向けての基本方針を話し合う場を設定した。校内講習会の内容は以下の3点で、特に②については職員の共通理解を図った。

①文部科学省教科調査官からの講話内容

②半年後にせまった「道徳の教科化」に向けての校内での取組に対する提案

③道徳の評価について

②の提案については、次の4つのことを確認した。

「提案1」 今年度中に道徳の価値項目22項目をまんべんなく実施し、道徳を実践する力を身につける。そのために、各学年の道徳担当者が、題材などの提案を行い、担任が不在の場合には、学年主任や副担任が代わりに授業を行う。そして、生徒の発言が多角的に出て、話し合いが進む発問を吟味する。多面的・多角的な考えを引き出す発問のヒントとして、「立場を変えて考えさせる」「比較して考えさせる」「条件や状況を変えて考えさせる」等、他にも4つの実践例を紹介した。

「提案2」 学期の中で1回以上はローテーション道徳を実施する。これは、学年教員全員が1つの教材を持ち回りで授業を行うものである。ローテーション授業実施のメリットは、いろいろな教員の視点で生徒を観察して、より客観的な評価をすることができることや、より深い教材研究ができることなどがあげられる。

「提案3」 ワークシートは、話し合う時間の確保と書く内容の焦点化を図ることから、書く内容を中心発問と授業の感想だけに絞り込む。来年度の評価のことも考え、ワークシートに担当者がコメントを書いて生徒に返却し、ファイルに保存させておく。コメントは、内容の善し悪しではなく、生徒を認めるような内容で簡潔に記入する。

「提案4」 道徳の適性検査を実施し、客観的な視点から、判断する資料として来年度の評価に活用する。

現在、どの学年もこの提案に沿った授業を展開しており、1月末には、道徳教育全体計画の見直し、各学年の実態把握とそれに伴った学年目標について話し合いの場を設け、道徳における学年の重点項目を決定した。また、来年度の授業の組み方も、各学年ローテーション道徳を実施するという事で、学年帯取りの時間割を組んでいくことで共通理解した。

以上、今年度の取組を紹介したが、来年度も地道な活動を続け、今年度より少しでも成果が上がるよう取り組んでいきたい。

